

# 長畝ふるさと通信

【2015年10月号】

## ■ 27年産米から「朱鷺と暮らす郷コシヒカリ」は「1等米」のみ

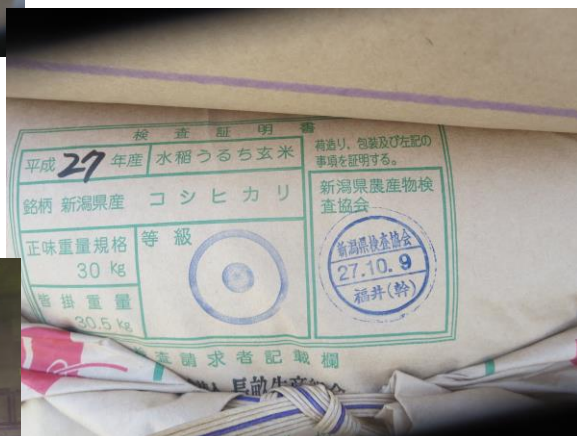
27年産の朱鷺と暮らす郷コシヒカリから「1等米のみ」の要件が追加されました。つまり「2等



米」に格付けされたお米は「朱鷺と暮らす郷コシヒカリ」として販売できないというわけで…

玄米色彩選別機はあるものの、心配で心配で毎日のお米のサンプルを米倉庫へ持参しては検査員に判別してもらいました。その甲斐あってか昨年に続きすべて「1等米」。これで胸を張って一年間販売できるってもんです。

玄米の袋にポンと押された◎が1等米の証拠です。〇〇建設のような偽装は一切ありませんのでご安心下さい。



JAの低温倉庫の一角にドンと積まれた約5,000袋の長畝のトキ米。来年の秋までに売り尽くします。皆さんもお知り合い等ご紹介頂ければ幸いです。

## ■ 「世界ふしぎ発見」で…

10月31日に放送されたTBSテレビの人気番組「世界ふしぎ発見」で佐渡のお米が紹介されました。実はボクも5月のロケには参加していて、レポーターやカメラマンに寄り添いながら情報提供を試みましたが、努力の甲斐もなく放送で映ったのはほんの一瞬。しかも単なるエキストラにしか見えません。ただ、翌日の組合のホームページには放送直後の21時30分頃から全国からお米の注文メールが一晩でうちの約ひと月分近くも入っておりました。恐るべしはテレビの力。以前、報道番組ニュースステーションで元テニスプレーヤーの松岡修三さんが佐渡米を紹介して下さった時も、放送直後の夜11時過ぎからたくさんの注文メールを頂きました。ありがたいことです。

## ■ 今年の佐渡米の出来映えは・・・



農水省は2015年産米の作柄状況を「平年並み」と発表しましたが、北海道や東北は「やや良」、関東・九州は「やや不良」、新潟県は平年の97%だったそうです。JAに尋ねると佐渡コシヒカリは10月末の集荷進捗率で84.3%、肝心の一等米比率は88.2%だそうです。ほとんどの地域で一等米比率は90%を超えたそうですが、島の北側海岸線地域で台風15号の影響をもろに受け28.2%しか無かったそうで

す。全国で多発する異常気象はコメの生産現場に大きな爪痕を残しました。コメ消費の減少や生産者の高齢化・過疎化は問題を更に深刻化しています。国の農業政策はどうでしょう。食糧自給率は低下する一方です。こりや大変だ・・・。

## ■ コメに次ぐ佐渡の特産品「おけさ柿」は・・・

品質は平年より糖度も高く、玉伸びも過去最高クラスということでしたが、高齢化の影響か生産者数が減少しており、全体の生産量は前年比95%程だとか・・・。昨年は雹被害で正品率が激減した年だったので、その年より更に低い生産量とは驚きです。また、今年はお盆過ぎから急激に冷え込んだ事で着色が平年より一週間以上も早まり、競合産地の奈良・和歌山と販売時期が重なってしまったため、過去最低の販売単価だったそうで、生産者にとっては2年続きの不運となりました。



一年間努力を重ねても、気候や販売環境に大きく左右される農業の現実を感じます。

## ■ 時速1.8キロで

10月10日にはすべての稲刈りが終わり、月末には大豆の収穫もほぼ終了しました。収穫作業の合間には田んぼの草刈りをしたり、トラクターで耕耘作業をしたりしています。トラクターの耕耘スピードは時速1.8キロ程。あまりにも遅いのでボンネットの上が赤とんぼの休憩場所になるほどです。30a(100m×30m)の田んぼを耕耘するのに約1.5時間かかります。その間、秋晴れの青空に浮かぶ雲の様子を眺めながら、特に何も考えない時間が過ぎていくのもなかなか良いものです。田んぼは単なるコメの生産工場ではありません。12月5日は恒例となった「収穫感謝祭」を行います。みなさんも佐渡の田んぼを見に来ませんか？

